
(通年) 2年次・必修

【概要・目標】

本講義では、CNN を題材にして英語特有のリズムを学習しながら、話し言葉としての語彙・文法構造を理解する。また個々の単語ではなく、1つの context として聞き取るコツをつかみ、実践的なリスニング能力を高めていく。さらに英語でプレゼンテーションおよび質疑応答を行うことにより、自らの意思や論理的思考を適切に伝達するとともに、他者の意思を的確に把握し、総合的なコミュニケーション能力を向上させることを目標とする。

【授業内容・スケジュール】

- 1) オリエンテーション (授業の概要、受講上の注意点など)
- 2) 3) Unit 1: Cool, Calm and Heroic
- 4) 5) Unit 2: Flying into the Future
- 6) 7) Unit 3: Food Healthy for the Planet
- 8) 9) Unit 4: Explosive Demand for Cobalt
- 10) 11) Unit 5: Starting Somewhere
- 12) 13) Unit 6: Serious Solution Needed
- 14) 前期のまとめ
- 15) 前期目標到達度確認
- 16) 前期を振り返って
- 17) 18) Unit 7: Self-Inflicted Wounds
- 19) 20) Unit 8: Deeply Disturbing
- 21) 22) Unit 9: Coping with Change
- 23) 24) Unit 10: Playing a Better Role
- 25) 26) Unit 11: Breaking the Connection
- 27) 28) Unit 12: As Young as You Feel
- 29) 後期のまとめ
- 30) 後期目標到達度確認

【評価】

試験 (60%)、レポート (0%)、小テスト (0%)、発表 (20%)、提出物 (0%)、出席状況 (10%)、参加態度 (10%)、その他 (0%)

【教科書】

関西大学 CNN 英語研究会. *English for the Global Age with CNN*, Vol. 21. 朝日出版社, 2020.

【推薦参考図書】

適宜紹介する

【その他】

全授業回数の3分の1以上の欠席は失格、遅刻・早退は2回で欠席1回分とカウントする。毎回必ず辞書（電子辞書可）を持参すること。なおスマートフォンや携帯電話の使用は認めず、辞書なしの受講は欠席とみなすので注意すること。E-mail: msando@wakayama-med.ac.jp

(前期) 2年次・必修

【概要・目標】

現代は人間関係を築くのが難しい時代だと考えられている。また、人間関係で悩んでいる人の数も年々増加していることが知られている。ここでは、人間関係の諸相を、自己理解、対人認知、コミュニケーションといった観点から検討する。とくに、「なぜ人間関係がうまくいかないのか」、「なぜうまく伝えられないのか」に関わる講義や実践を通して、医療の場に求められているコミュニケーションのあり方について考える。

【授業内容のスケジュール】

	担当
1) 集団の影響 2) 同調	石井/石井
3) 集団的意思決定の規範 4) 集団的意思決定の罫	石井/石井
5) 対人的意思決定とゲーム理論 6) 社会的ジレンマ	石井/石井
7) チームワークとリーダーシップ	石井
8) 記号論・コミュニケーション論の基礎 9) (発表関連の調整)	増田/増田
*10) 非言語コミュニケーション *11) 自己理解	(増田)/(増田)
*12) 自己開示・自己呈示 *13) ポライトネス	(増田)/(増田)
*14) スピーチ・コミュニティ 15) 心理学的な説得的コミュニケーション	(増田)/増田

※尚、*印が付された計5回分は、学生グループ(原則16名)が実質70分間授業を実施する。

【評価】

石井担当回(50点満点)と増田担当回(50点満点)の合算で評価する。期末試験及び再試験を含め、両教員の担当授業は独立しているので注意すること

【石井担当回】筆記試験(80%)、提出物(10%)、発表(10%)により総合的に評価する。

【増田担当回】●期末試験(持ち込みなし)における個人得点(48点満点)に、発表担当グループが受け取る「学生担当授業成果係数」(最低0.50から最高1.50)を掛けた数値の小数点以下第1位を四捨五入した整数値を素点とする(50点を超過した点数は切り捨て)。●期末試験は問題選択式記号選択式試験であり、24問出題される。但し、正答1問4点加点、誤答1問4点減点である。*印が付された回から各4問、他の2回から合わせて4問出題される。うち2問は授業を担当したグループの出題リスト(20問作成が条件)から採用されるが、採用問題は事前には通知されない。原則的には、授業内容の指導は担当グループの学生が行う。●「学生担当授業成果係数」は、自グループが担当した回に関連する4問のうち、他グループ学生の選択率2位と3位の問題の正答率のそれぞれ4分の1の値を合算したものである。尚、自グループが責任を持つ講義内容に関する設問の全てに解答しなかった場合は採点対象外とする。

【教科書】【推薦参考図書】

【石井担当回】使用しない。【増田担当回】以下の3点は必携である。

必携①中西雅之「人間関係を学ぶための11章」くろしお出版 2000

必携②岡本真一郎「言語の社会心理学」中央公論新社(中公新書) 2013

必携③石黒圭「日本語は『空気』が決める」光文社(光文社新書) 2013

【その他】【増田担当回】年度始めのオリエンテーションで配布されるシラバスや掲示の指示に注意すること。オフィスアワーは「授業準備」に限り、各グループに割り当てられた制限時間のみである。

(前期) 2年次・必修

【概要・目標】

近代医学・医療の急激な進歩に伴って表面化してきた人間の生と死をめぐる諸問題を俎上に載せ、基本的人権としての生存権、生活権、健康権とともに、医療の場における患者の自決権が如何に保障されるべきかについて考究し、医療の担い手の基本的な資質として求められる患者の人権を尊び守る態度の涵養を図る。

【授業内容・スケジュール】

i. 前半は、いわば「基礎編」、あるいは「理論編」である。7回の授業で以下の事柄を講述する予定である。

1. 倫理（学）的思考もしくは判断の基礎
 - 1-1. 倫理的葛藤と倫理（学）の必要性
 - 1-2. 応用倫理学としての生命倫理：規範倫理学と応用倫理学
 - 1-3. 善さ・正しさとは：規範倫理学の諸理論の概説
2. 医療倫理と生命倫理学
 - 2-1. 医療の倫理の伝統
 - 2-2. 生命倫理学の誕生
3. 看護に携わる者の倫理
 - 3-1. 看護職の歴史と位置
 - 3-2. 看護職特有の倫理

ii. 後半は、医療の場で遭遇する倫理問題について論究する。

- 1 生命倫理の展開—医療の担い手の職業倫理と患者の権利
- 2 世界保健憲章や経済的、社会的および文化的権利に関する国際規約等にみられる「健康権」の概念と全ての人に認められる権利としての「自決権」の尊重
- 3 アメリカおよびナチス・ドイツにみられた「優生思想」と生命倫理
- 4 尊厳死と安楽死をめぐる課題
- 5 ヒトの誕生と生殖医療
- 6 障害者をめぐる課題
- 7 日常診療における医療者と患者のコミュニケーション
- 8 経済発展と生命尊重—事例からみた企業の社会的責任

【評価】

試験（90%）、授業への参加（ミニレポートを含む）（10%）

【教科書】

必要に応じ資料プリント配布

【推薦参考図書】

適宜紹介する。

【その他】

メールアドレス mappy0905@hotmail.co.jp

(後期) 2年次・必修

【概要・目標】

保健医療分野では、対象者から得られる様々な情報を整理・分析することで健康上の問題を把握して、その原因を探り、明らかになった原因を除去する対策を講じて解決を図ることが必要である。本講義では、情報を科学的に整理・分析する上で必要な統計学の知識や技術を習得する。また、各種の保健統計のうち、人口動態統計および疾病統計から得られる指標をもとに、出生や死亡の動向、健康水準の現状などについて解説する。

【授業内容のスケジュール】**(担当)**

1) 人口静態統計 (国勢調査)、人口動態統計 (その1: 出生)	黒田
2) 人口動態統計 (その2: 死亡)、生命表	黒田
3) 人口動態統計 (その3: 死産、婚姻、離婚)、患者調査	黒田
4) 国民生活基礎調査、受療行動調査	黒田
5) 国民健康・栄養調査	黒田
6) その他の保健統計	黒田
7) 保健医療の実践と統計学	宮井
8) 母集団と標本 (全数調査と標本調査)	宮井
9) データの性質と尺度水準	宮井
10) 記述統計と基本統計量	宮井
11) 母集団の推定 (点推定と区間推定)	宮井
12) 仮説検定の手順と結果の解釈	宮井
13) 平均値の差の検定	宮井
14) 割合の差の検定	宮井
15) 相関と回帰	宮井

【評価】

受講態度(10%)、小テストまたは小レポート(10%)、筆記試験(80%)で総合的に判断する

【教科書】

授業時に資料を配付する

【推薦参考図書】

大木秀一 著「基本からわかる看護統計学入門」医師薬出版株式会社 2014
対馬栄輝 著「SPSSで学ぶ医療系データ解析」東京図書 2011

【その他】

連絡先: miyain@wakayama-med.ac.jp

(前期) 2年次・必修

【概要・目標】

地域社会で生活している人々の健康の現状や課題を把握し、それらに影響を及ぼしている社会の諸要因を理解するとともに、疾病を予防し健康を増進する対策を理解することを目標とする。

集団の健康に関連した指標について学習し、国民の健康の現状と課題を理解する。さらに、健康増進対策（健康日本 21（第 2 次））や感染症対策、がん対策、難病対策、食品保健などについて学習する。

【授業内容のスケジュール】

- 1) 健康と公衆衛生
- 2) 健康に関連した指標
- 3) 生活習慣病と健康増進対策（健康日本 21（第 2 次））
- 4) 感染症対策（感染症法）
- 5) 感染症対策（HIV・エイズ、結核、予防接種）
- 6) がん対策
- 7) 難病対策
- 8) 食品保健

【評価】

評価方法は、受講態度（10%）、小レポート（10%）、筆記試験（80%）による。

【教科書】

一般財団法人厚生労働統計協会 編「国民衛生の動向」（最新版）

【推薦参考図書】

武田眞太郎、宮下和久 著「公衆衛生学 四訂版」培風館 2010

岸玲子、古野純典、他 編「NEW 予防医学・公衆衛生学 改訂第 4 版」南江堂 2018

医療情報科学研究所 編「公衆衛生がみえる 2020-2021」メディックメディア 2020

【その他】

連絡先：mokkunn@wakayama-med. ac. jp

(後期) 2年次・必修

【概要・目標】

成人期にある人々の多くは企業等で働いている。この時期の保健活動には労働と職場に密着した活動が重要である。産業保健の分野では、職場における保健活動を進める体制を理解し、事業者や労働者と協力して健康障害への対策を展開できる基礎知識を習得する。さらに、産業保健分野の専門職としての技能を有する衛生管理者として労働者の健康管理に必要な知識や技術を広く習得する。

【授業内容のスケジュール】

- 1) 産業保健総論
- 2) 産業保健組織
- 3) 労働衛生管理業務の概要 (その1、健康管理)
- 4) 労働衛生管理業務の概要 (その2、作業環境管理)
- 5) 労働衛生管理業務の概要 (その3、作業管理)
- 6) 労働法規と労働衛生行政
- 7) 産業保健指導論
- 8) まとめ

【評価】

授業は講義形式を主とするが、発表などの演習も取り入れる。
評価方法は、試験 (80%)、レポート (20%)、小テスト (0%)、発表 (0%)、提出物 (0%)、出席状況 (20%)、参加態度 (20%)、その他 (0%)

【教科書】

池田智子編 「産業看護学」講談社 2016

【推薦参考図書】

中央労働災害防止協会 編「衛生管理(上)-第1種用-」中央労働災害防止協会 2015
日本産業衛生学会近畿地方会 編「産業医学実践講座 改訂第2版」南江堂 2006
法研 編「職域における保健と医療実践ハンドブック」法研 2007
中央労働災害防止協会 編「労働衛生のしおり 平成28年度」中央労働災害防止協会2016
河野啓子著 「産業看護学」日本看護協会出版会

【その他】

(前期) 2 年次・必修

【概要・目標】

社会保障には、年金や医療のように社会に生きる者の大半を対象とする制度と、いわゆる「社会的弱者」とされる児童や高齢者等、対象を一定の範囲に絞った制度との2種類があります。同じ社会保障の枠内ですが両者の制度を支える原理はまったく異なるといえます。そして後者の制度は、「社会福祉制度」と呼ばれています。

この講義では、社会保障における社会福祉制度を対象として、その理念を考察しつつ、具体的な現状と課題点について検討していきます。最終的には、医療職を目指す者として、現在の社会福祉制度に対しての具体的な批判と、それに対する対策を指摘できる知識の習得をはかることを目的とします。

【授業内容・スケジュール】

- 1) ガイダンスと総論
- 2) 貧困に対する対策
①生活保護法 ②論点と課題
- 3) ~ 4) 高齢者に対する福祉
①高齢者のための福祉法制 ②介護保険法
- 5) 児童・家族福祉
①児童のための福祉法制 ②児童虐待防止法
- 6) 障害者福祉
①障害者のための福祉法制 ②障害者総合支援法 ③障害者差別解消法
- 7) まとめ

(上記内容は講義の進捗状況等により変更する可能性があります。)

【評価】

試験 (80%)、レポート (0%)、小テスト (0%)、発表 (0%)、提出物 (10%)、出席状況 (5%)、参加態度 (5%)、その他 (0%)

【教科書】

福田素生ほか『系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3]社会保障・社会福祉 (第 21 版)』医学書院 2020

久塚純一・森田慎二郎・金川めぐみ編『チャレンジ現代社会と福祉』法律文化社 2012

【推薦参考図書】

授業中に適宜指示する。

【その他】

医療職に携わるみなさんにとって、社会福祉は是非学んでおいていただきたい領域です。積極的な姿勢で講義に参加されることを望みます。講義内容でわからないことがあれば、直接またはメールにて連絡してください (メールアドレス kanamegu@wakayama-u.ac.jp)。

(前期) 2年次・必修

【概要・目標】

現在、世界に類を見ない速度で少子・高齢化が進んでいる我が国において、社会福祉の重要性は増大している。特に、急増する高齢者の介護の分野においては、その理念や制度のあり方を根本から問い直す、大きな転換期を迎えている。

本講義では、社会福祉を支える制度や理論を学ぶとともに、社会福祉の各分野における先駆的な実践事例を紹介する。

机上の論理にとどまらず、講義やグループワークを社会福祉活動を行う上で必要な力を身につけることを目標とする。

【授業内容・スケジュール】

1. オリエンテーション
2. 我が国の社会福祉を取り巻く状況
3. パーソンセンタードケア—認知症ケアの「古い文化」と「新しい文化」
4. 社会福祉の新しい潮流—小規模多機能ケアと共生ケア
5. ボランティアと社会福祉—実践的ボランティア論
6. スウェーデンに学ぶ社会福祉—これからの社会福祉のあり方
7. まとめ—ほんとうの社会福祉とは

【評価】

レポート (80%)、授業への出席・貢献 (20%)

【教科書】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【推薦参考図書】

大熊由紀子 『「寝たきり老人」のいる国いない国』 ぶどう社 1990年
トム・キットウッド 『認知症のパーソンセンタードケア』 筒井書房 2005年

【その他】

(後期) 2年次・必修

【概要・目標】

我が国において、医療の発展などにより高齢者と障害者の数が増え、臓器別医療に偏らない障害医学の視点に立った医療需要が増えています。リハビリテーション（リハ）医学はその障害医学を包括し、患者の「能力」「活動性」を向上し、ひいては生活の質を改善する事を目的とします。実際の看護でもリハの重要度が増えているので、その理解が重要となっています。講義を通じてリハの具体的な手法を学び、看護への応用を理解してもらいます。

【授業内容のスケジュール】

- 1) 総論 (障害学)
- 2) 運動生理学
- 3) 急性期リハビリテーションの意義
- 4) 内部障害 (循環・呼吸・腎・免疫)
- 5) 安静臥床の弊害と運動の意義
- 6) 理学療法
- 7) 作業療法
- 8) 言語療法と高次脳機能障害
- 9) 2次的障害の予防 (褥瘡、拘縮、静脈血栓など)
- 10) 嚥下 (摂食)、排泄、移動とFIM
- 11) 中枢性疾患 (脳血管障害、脳性麻痺)
- 12) 運動器疾患 (筋・神経疾患、骨関節疾患)
- 13) 看護とリハビリテーション1
- 14) 看護とリハビリテーション2

【評価】

筆記試験

【教科書】

久保俊一、田島文博編集「イラストと写真でわかる実践装具療法-装具の選択と疾患別使用例」
公益社団法人日本リハビリテーション医学会編集「リハビリテーション医学・医療 コアテキスト」医学書院 2018

【推薦参考図書】

上田敏、千野直一、大川嗣雄編「リハビリテーション基礎医学」医学書院 1994

【その他】

(通年) 2年次・必修

【概要・目標】

成人において長期間の治療・管理が必要とされる慢性疾患の基礎的病態について、臓器別に病因、症状、検査、治療、予後の特徴を理解する。また、身体の回復機序や疾病改善のためのライフスタイル修正策を学び、それらを踏まえた生活指導と看護上の問題解決能力を習得する。

【授業内容のスケジュール】

(担当)

(水越、橋爪)

- 1) ~3) 呼吸器疾患
(総論) 症候学、診断学 (各論) 呼吸器感染症、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患、肺腫瘍、肺循環疾患、換気異常、呼吸不全
- 4) ~9) 循環器疾患
(総論) 症候学、診断学 (各論) 心不全、不整脈、虚血性心疾患、弁膜症、心筋疾患、先天性心疾患、血管疾患、血圧異常
- 10) ~13) 消化器疾患
(総論) 症候学、診断学 (各論) 食道疾患、胃十二指腸疾患、大腸疾患、肝胆膵疾患
- 14) ~15) 代謝性疾患
(総論) 症候学、診断学 (各論) 糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症
- 16) ~17) 内分泌疾患
(総論) 症候学、診断学 (各論) 視床下部下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患
- 18) ~20) 腎疾患
(総論) 症候学、診断学 (各論) 腎不全、慢性腎臓病、糸球体腎炎、続発性腎疾患
- 21) ~23) 血液疾患
(総論) 症候学、診断学 (各論) 赤血球の疾患、肺血球の疾患、出血性疾患
- 24) ~26) 膠原病・アレルギー
(総論) 症候学、診断学 (各論) 関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎/皮膚筋炎、強皮症、血管炎、シェーグレン症候群、薬剤アレルギー、アナフィラキシー、花粉症
- 27) ~28) 感染症
(総論) 症候学、診断学 (各論) 細菌性疾患、真菌性疾患、ウイルス性疾患
- 29) ~30) 神経疾患
(総論) 症候学、診断学 (各論) 脱髄性疾患、神経筋接合部疾患、筋疾患、神経系感染症

【評価】

筆記試験 (80%)、授業への参加 (15%)、レポート (5%)

【教科書】

浅野嘉延、吉山直樹 編「看護のための臨床病態学」南山堂

【推薦参考図書】

系統看護学講座「成人看護学」医学書院
新体系看護学全書「疾病の成り立ちと回復の促進」メジカルフレンド社

【その他】

急性期病態学

上 松 右 二 教授
神 人 正 寿 教授*
西 村 好 晴 教授*
原 勲 教授*
山 田 宏 教授*

(通年) 2年次・必修

【概要・目標】

身体の構造・機能、基礎病態学の知識をもとに、各種急性疾患の病因、症状、診断、治療について看護に必要な知識を学習する。急激に変化する緊急疾患、周手術期の患者の症状を理解し、その治療、看護への知識を習得する。実際の症例提示を通してより効果的に学ぶ（オムニバス方式）。

【授業内容のスケジュール】

- 1) ～ 7) 神経外科：神経診断学，頭部外傷，脳血管障害 I・II，脳腫瘍 I・II，水頭症等
- 8) ～ 11) 消化器外科：胃癌，消化性潰瘍，大腸癌，イレウス，肝癌，胆石症，膵癌等
- 12) ～ 14) 麻酔科：麻酔に必要な生理学，麻酔薬と筋弛緩薬，麻酔法等
- 15) ～ 18) 循環器・呼吸器・乳腺外科：先天性心疾患，弁疾患，不整脈，心臓腫瘍・外傷，
虚血性心疾患，血管疾患，呼吸器疾患，乳腺疾患
- 19) ～ 22) 皮膚科：皮膚疾患の基礎と代表的疾病（炎症、角化異常、感染、腫瘍等）
- 23) ～ 26) 整形外科：診断学・治療学総論，脊椎・脊髄疾患，四肢骨折，関節疾患・外傷
- 27) ～ 30) 泌尿器科：症候と検査，悪性腫瘍，尿路性器感染症と尿路結石症，排尿障害

【評価】

筆記試験（90%）、出席状況（10%）

【教科書】

講義プリント

【推薦参考図書】

- 1) 北村聖編：臨床病態学 I 第2版 ニューヴェルヒロカワ 2013
- 2) 馬場元毅：絵でみる脳と神経 第4版 医学書院 2018
- 3) 後藤秀実監修：症状からみた消化器疾患の診断と治療 第1版 診断と治療社 2006
- 4) 太城力良編：「新・麻酔看護マニュアル」メディカ出版 2003
- 5) 高崎眞弓：「イラスト麻酔科」文光堂 2003
- 6) 龍野勝彦：「心臓外科エキスパートナーシング」南江堂 2004
- 7) 小柳仁著「心臓にいい話」新潮新書 2006
- 8) 正岡昭監修，藤井義敬編：呼吸器外科学 南山堂 2009
- 9) 坂元吾衛・野口昌邦監修：乳腺疾患の臨床 金原出版 2006
- 10) 古川福実編著：皮膚科典型アトラス 560 日本医事新報社 2008
- 11) 石川 治、古川福実、伊藤雅章編著：ナースの実践皮膚科学 中外医学社 2005
- 12) 久保俊一他編：「図解整形外科」金芳堂 2006
- 13) 中村利孝、松野丈夫監修：「標準整形外科学第13版」医学書院 2016
- 14) 土方浩美編：「整形外科看護アップデート」照林社 2002
- 15) 栗田孝・八竹直監修，奥山明彦編：TEXT 泌尿器科学 第3版 南山堂 2005
- 16) 西沢理：New 泌尿器科学 第2版 南江堂 2007

(前期) 2年次・必修

【概要・目標】

【概要】 此ころの問題にかかわる様々な知識を学び、そこから精神の「障がい」とは何かを考え、理解し、一人ひとりに応じた援助を行うための知識と態度を養う。

【目的】 病院および地域社会における精神保健・看護活動に必要な心構えと知識を修得する。

- 1) 精神の健康および「障がい」とは何かを学ぶ。
- 2) 精神医療の現状を学ぶ
- 3) 精神看護に必要な基礎的知識を学ぶ。
- 4) 精神看護に必要な人権意識および倫理感を培う。

【授業内容のスケジュール】

第1講：精神看護の役割 / 日本の精神医療の現状と課題

第2講：精神の健康・不健康とは何か

第3講：危機理論・ストレス理論

第4講：心のはたらきを考えるための諸理論-①

第5講：心のはたらきを考えるための諸理論-②

第6講：家族・集団と此ころの健康問題

第7講：様々な精神症状

第8講：「精神障害」の診断と分類

第9講：統合失調症の理解

第10講：気分[感情]障害の理解

第11講：神経症性障害・ストレス関連障害・解離性障害の理解

第12講：パーソナリティ障害・摂食障害の理解

第13講：薬物依存・アルコール依存の理解

第14講：精神科薬物療法

第15講：まとめ

【評価】

筆記試験 90% 授業参加状況 10%

【教科書】

武井 麻子他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 医学書院

【推薦参考図書】

【その他】

(後期) 2年次・必修

【概要・目標】

小児の最大の特徴は成長と発達である。小児の特性を考慮し、臓器別に小児に特徴的な急性疾患および慢性疾患についての病態と治療について解説する。栄養の基礎となる母乳、人工乳、離乳食の概念や予防接種、小児の事故、虐待など小児に関わる関連領域についてもできる限り言及する。

目的：小児の特性について習熟すること

目標：1. 小児科学および小児保健学の理解

2. 成長・発達の理解

3. 正常と病態の理解

【授業内容のスケジュール】

- 1) 小児の特性、成長、発達
 - 2) 感染症 ウイルス性疾患、細菌性疾患
 - 3) 小児の栄養 母乳と人工乳、離乳食
 - 4) 新生児
 - 5) 内分泌
 - 6) 代謝
 - 7) 血液・悪性腫瘍
 - 8) 循環器 先天性心疾患、後天性心疾患
 - 9) 腎臓
 - 10) 膠原病
 - 11) 免疫・アレルギー
 - 12) 神経・筋
 - 13) 消化器
 - 14) 呼吸器
 - 15) 精神疾患・心身症・その他
-

【評価】

試験 (70%)、小テスト (10%)、発表 (0%)、提出物 (レポート等) (10%)、出席状況 (10%)、参加態度 (0%)、その他 (0%)

【教科書】

小児看護学 (I) 小児看護学総論 小児臨床看護総論 (医学書院)

小児看護学 (2) 小児臨床看護各論 (医学書院)

【推薦参考図書】

子育て支援のための小児保健学 (日本小児医事出版社)

ナースとメディカルのための小児科学 (日本小児医事出版社)

【その他】

発達段階からみた小児看護過程+病態関連図 (医学書院)

(後期) 2年次・必修

【概要・目標】

薬物を臨床応用するための基本的な薬理作用の概念が理解できるようになるために、すべての薬物に共通する生体と薬物の相互作用について学ぶ。

【授業内容・スケジュール】

薬理学総論

- 1) 薬とは?、薬品名
- 2) 薬物の作用点、薬物の投与経路
- 3) 薬物の体内動態・薬効に影響を及ぼす因子
- 4) 薬の相互作用・有害作用、医薬品と法令

薬理学各論(1)

- 5) 抗感染症薬
 - 6) 抗がん薬
 - 7) 免疫治療薬
 - 8) 抗アレルギー薬・抗炎症薬
-

【評価】

試験(75%)、レポート(0%)、小テスト(10%)、発表(0%)、提出物(0%)、出席状況(10%)、参加態度(5%)、その他(0%)

【教科書】

吉岡充弘 他：系統看護学講座「薬理学」医学書院

【推薦参考図書】

加藤隆一：「臨床薬物動態学」南江堂

田中千賀子 他：「NEW 薬理学」南江堂

渡邊裕司 監訳：「臨床薬理学」丸善

【その他】

メールアドレス tomoen@wakayama-med.ac.jp

看護方法論Ⅱ（看護過程）

水田 真由美 教授
岩根 直美 准教授
坂本 由希子 准教授
野々口 陽子 助教
米島 望 助教

（前期）2年次・必修

【概要・目標】

概要：対象の看護上の問題を査定し、問題を解決していく方法論の一つである看護過程について学ぶ。看護過程の展開に必要な基礎的な理論を学び、そして、さまざまな事例を用いて演習を行い、問題解決への方法と実践力を養う。

- 目標：1) 看護過程の構成要素およびそれぞれの要素についての理解ができる。
2) 看護過程で活用されている理論についての理解ができる。
3) 看護過程の理論を活かして事例を展開することができる。
4) 臨床でよくみられる看護問題を理解し、それらに対する具体的な解決方法を習得する。

【授業内容のスケジュール】

- 1) 看護過程の概要と構成要素
- 2)～5) アセスメント・看護問題の明確化
- 6)～7) 全体像、看護診断
- 8)～9) 看護計画立案
- 10)～11) 実施と評価、看護記録
- 12)～15) 紙上事例の展開
- 16)～30) 看護問題と解決方法
(発熱、便秘・下痢、呼吸困難、褥瘡、嚥下障害等の症状を有する患者の看護、および罨法、吸入、吸引、包帯法等の演習)

【評価】

筆記試験（80%）、授業への参加状況（10%）、出席状況・提出物（10%）

【教科書】

三上れつ著「実践に役立つ看護過程と看護診断 第2版」ヌーヴェルヒロカワ
高木永子著「看護過程に沿った対症看護 第5版」学研
矢田昭子・秦美恵子編集「基準看護計画 第3版」照林社

【推薦参考図書】

その他 随時紹介する

【その他】

学習サポート

実習室において自己学習と技術指導を受けることができます。（曜日などの詳細は別途）

看護方法論Ⅲ（医療技術）

水 田 真由美 教授
岩 根 直 美 准教授
坂 本 由希子 准教授
野々口 陽 子 助教
米 島 望 助教

（後期）2年次・必修

【概要・目標】

医療において患者が安全・安楽に診療を受けられ、最大の治療効果が得られるように、患者を援助するための基礎的知識・技術を学ぶ。また、診療を受ける患者の心理や苦痛を理解し、援助ができる能力を習得する。基礎看護実習室での演習を中心に教授・学習活動を行う。

目標

- 1) 感染予防に必要な知識・技術を学び、実践することができる。
- 2) 診察および検査時の看護の役割を理解し、必要な看護技術を習得する。
- 3) 薬物療法における看護を学び、与薬管理、注射等の技術を習得する。
- 4) 医療を受ける患者および家族の心理や苦痛を理解し、援助できる基本姿勢を身につける。

【授業内容のスケジュール】

- 1) ～ 5) 感染予防に関する技術
- 6) ～ 9) 診察と検査時の看護
- 10) ～ 12) 導尿
- 13) ～ 25) 薬物療法と看護
- 26) ～ 30) 総合学習

【評価】

筆記試験（70%）、技術試験（20%）、出席状況・提出物（10%）

【教科書】

- 1) 「基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ」
- 2) 「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」
※上記1) 2) は1年次に購入したものを使用
- 3) 林 陸郎 編著「看護学生のための臨床検査」第2版 メヂカルフレンド社

【推薦参考図書】

その他、随時紹介する

【その他】

学習サポート

実習室において、自己学習と技術指導を受けることができます。（曜日などの詳細は別途）

【概要・目標】

「産科婦人科学」の内容のうち母性看護実習や看護師・保健師・助産師に必要な基礎的医学知識に関し、妊娠を扱う「産科」、女性生殖器の疾患を中心に扱う「婦人科」に分けて医学部教員 3 人が講義を行います。看護を行う上で、患者さんが病気のために性機能の一部または全部を失った時に疾患に対するケアのみでは無く、ライフステージに応じた「セクシュアリティ」の支援が必要になるケースがあり、「性と生殖」に関する正しい知識を持つことが看護師・保健師・助産師として求められます。

「性と生殖」に関する正しい知識を持つことは、自らの「セクシュアリティ」を見つめ直す機会に繋がります。また妊娠・出産は「病気では無い」と一般に言われますが、現実には妊娠・出産で時として妊婦さんは命を失う場合もあります。人間の存在の根幹に関わる「性と生殖」について、講義を通して考える機会となれば幸いです。

【授業内容のスケジュール】

<婦人科> (1~8)

- 1) 女性生殖器の解剖、産婦人科診察・検査
- 2) 女性の性周期とホルモン
- 3) 思春期・更年期
- 4) 婦人科感染症（性感染症を含む）（吉村）
- 5) 子宮の疾患、がん検診と HPV ワクチン（吉村）
- 6) 卵巣の疾患、絨毛性疾患（吉村）
- 7) 婦人科手術と術後管理、化学療法と緩和ケア（吉村）
- 8) 避妊と不妊、人工妊娠中絶と母体保護法

<産科> (9~14)

- 9) 妊娠の成立
- 10) 正常妊娠
- 11) 正常分娩
- 12) 異常妊娠
- 13) 異常分娩
- 14) 産科手術と術後管理
- 15) まとめ（山口）

【評価】

筆記試験（産科 40 点、婦人科 60 点）、授業への参加状況から総合的に評価します。

【教科書】

講義プリント

【推薦参考図書】

「病気がみえる Vol.9 婦人科・乳腺外科」第 3 版 MEDIC MEDIA

「病気がみえる Vol.10 産科」第 3 版 MEDIC MEDIA

健康と看護

井上みゆき 教授
前馬理恵 教授
服部園美 准教授
樫葉雅人 講師

(前期) 2年次・必修**【概要・目標】**

(小児看護学)

小児看護を実践するための基礎知識と子どもの成長発達と発達を促進する看護を学修する。

(精神看護学)

ライフサイクルや労働に伴うメンタルヘルスおよび精神医療の歴史的変遷と現在の法的根拠について学ぶ。

(在宅看護学)

健康障がいを持つ地域生活者とその家族を理解し、療養者や家族を支える看護の役割と保健医療福祉の連携について学ぶ。

(老年看護学)

加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化を学び、高齢者の健康問題と看護を学ぶ。

【授業内容のスケジュール】

1) ~8) (小児看護学) 井上

- 1) 小児看護の対象・目的・役割と責務・歴史的変遷と課題
- 2) 子どもの人権：子どもの権利・倫理的配慮・生命倫理
- 3) 子どもを取り巻く環境と対策・小児看護における発達理論
- 4) ~8) 乳児期～学童期・思春期の成長・発達と看護

9) ~15) (精神看護学) 樫葉

- 1) 児童・思春期のメンタルヘルス 2) 高齢者のメンタルヘルス
- 3) 学校におけるメンタルヘルス 4) 職場におけるメンタルヘルス
- 5) 看護師のメンタルヘルス 6) 精神医療の歴史
- 7) 精神医療関連法規

16) ~23) (在宅看護学) 前馬

- ・健康障がいを持ち地域で生活する療養者と家族の現状
- ・在宅で療養する人々の生活を支える看護の役割と地域における支援体制や社会資源

24) ~30) (老年看護学) 服部

- ・心身の加齢変化と健康アセスメント
 - ・高齢者の健康問題と生活を整える看護
-

【評価】

精神・在宅・老年：筆記試験 90%、授業参加状況 10%

小児：筆記試験 70%、授業への主体的参加度・事前学習課題 30%

評価責任者：前馬理恵

【教科書】

二宮啓子編集：小児看護概論「子どもと家族に寄り添う援助」改訂版第3版 南江堂

二宮啓子編集：小児看護技術「子どもと家族の力を引き出す技」改訂版第3版 南江堂

武井麻子他「系統看護学講座専門分野Ⅱ精神看護①および②」

臺有桂他編：「地域療養を支えるケア」第6版 メディカ出版

北川公子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院

【推薦参考図書】

随時紹介します。

慢性期看護論 I

井 上 みゆき 教授
辻 あさみ 教授
上 田 伊津代 講師
山 口 昌 子 講師
檜 葉 正 人 講師

(後期) 2年次・必修

【概要・目標】

それぞれのライフステージにあつて、健康障害が慢性的な経過をたどる人の生活環境や疾患の特性を理解し、家族を含めた治療環境の調整や“その人らしい”生活がおくれるよう支援する看護について学ぶ。

1. 慢性的に経過する疾患の特性を理解する。
2. 慢性的に経過する疾患をもちながら生活している療養者や家族の特性を理解する。
3. 慢性的に経過する疾患をもちながら生活している療養者や家族に対する看護の基本的な知識及びケア技術を学ぶ。
4. 治療環境の整備及び“その人らしい”生活がおくれるよう支援する看護について学ぶ。
5. 疾患をもちながらも生活の質の向上を目指す看護について学ぶ。

【授業内容のスケジュール】

- | | | |
|-------|--------------------------|---------|
| 1) | 慢性期看護の概論 | (成人：辻) |
| 2)～9) | 慢性期にある成人期の人々の特徴と理解 | (成人：辻) |
| | 慢性期にある成人期の人々への看護援助 | (成人：辻) |
| | 内分泌疾患をもつ人々への看護 | (成人：上田) |
| | 循環器疾患をもつ人々への看護 | (成人：山口) |
| | 腎疾患をもつ人々への看護 | (成人：上田) |
| | 難病・自己免疫疾患をもつ人々への看護 | (成人：山口) |
| 10) | 健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護 | (小児：井上) |
| 11) | 慢性疾患をもって生きる子どもと家族の支援 | (小児：井上) |
| 12) | 子どもの入院・治療・検査・処置のプレパレーション | (小児：井上) |
| 13) | 精神科における長期入院者への看護 | (精神：檜葉) |
| 14) | 認知症看護 | (精神：檜葉) |
| 15) | 精神科における身体ケア | (精神：檜葉) |

【評価】

小児：試験 90%、出席状況・参加状況・事前学習課題 10%

成人：試験 90%、出席状況・参加状況 10%

精神：試験 90%、出席状況・参加状況 10%

評価責任者：辻あさみ教授

【教科書】

大西和子編集：成人看護学「成人看護学概論」 第2版 ニューヴェルヒロカワ

鈴木志津枝編集：成人看護学「慢性期看護論」 第3版 ニューヴェルヒロカワ

二宮啓子編集：小児看護概論「子どもと家族に寄り添う援助」改訂版第3版 南江堂

二宮啓子編集：小児看護技術「子どもと家族の力を引きだす技」改訂版第3版 南江堂

武井麻子他「系統看護学講座専門分野Ⅱ精神看護①、②」

【推薦参考図書】

必要であれば講義の中で提示する。

【その他】

急性期看護論 I

井 上 みゆき 教授
池 田 敬 子 准教授
服 部 園 美 准教授
川 井 美 緒 助教
寒 川 友起子 助教

(後期) 2年次・必修

【概要・目標】

急性期疾患あるいは慢性疾患の急性増悪や手術などにより、急性経過を経る疾患を有する人に対して緊急時に求められる看護について学び、必要なケア技術を習得する。

1. 急性の健康障害をもつ成人の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、援助方法を学修する。
2. 子どもが急性期疾患に罹患したときに出現する症状に対する看護を学修する。
3. 急性期にある高齢者の病態変化を理解し、それに応じた看護を学修する。

【授業内容のスケジュール】**(担当)**

- 1)~2) 急性期の状況にある人の特徴と理解 池田・川井・寒川
- (1) クリティカルな状態にある患者の看護
 - (2) ストレス・コーピング理論、危機理論と援助
- 3)~9) 急性期の状況にある成人患者の看護援助
- (3) 易感染性状態の患者に対する看護援助
 - (4) 虚血性心疾患(心筋梗塞)患者の看護
 - (5) 脳血管障害患者の看護
 - (6) ICU入室患者の看護
 - (7)~(9) 周術期にある患者の特徴とその看護
- 10) 子どもの心身のアセスメント 井上
- 11) 子どもの急性期の特徴と症状別看護①
- 12) 子どもの急性期の特徴と症状別看護②
- 13) 14) 高齢者の急性期の特徴とその看護 服部
- 15) 検査・治療を受ける高齢者への看護

【評価】

成人看護・高齢者看護：定期試験（90%）、受講態度（10%）をもとに評価する。

場合によってはレポートを学期内に課すこともある。

小児看護：事前学習課題、講義への自主的参加（10%）・試験（90%）をもとに評価する。

【教科書】

二宮啓子編集：小児看護概論「子どもと家族に寄り添う援助」改訂版第3版 南江堂

二宮啓子編集：小児看護技術「子どもと家族の力を引き出す技」改訂版第3版 南江堂

雄西智恵美編；成人看護学「周手術期看護論」第3版ニューヴェルヒロカワ

池松裕子編；成人看護学「急性期看護論」ニューヴェルヒロカワ

野崎真奈美；成人看護学「成人看護技術」最新版 南江堂

【推薦参考図書】

奥野茂代、大西和子編：老年看護学第4版 ニューヴェルヒロカワ

【その他】

リハビリテーション看護論

井上	みゆき	教授
辻	あさみ	教授
池田	敬子	准教授
山本	明弘	教授
服部	園美	准教授
檜葉	雅人	講師
早川	博子	助教
丸岡	朋子	助教

(後期) 2年次・必修

【概要・目標】

身体的・精神的・社会的な側面に健康障害をもつ人々の生活の自立や社会復帰に向けて、人々の生活の質を高めることを目指したリハビリテーション看護について、保健・医療・福祉の総合的見地から学ぶ。個々のライフステージの特性を踏まえ、社会資源を活用し、生活能力を最大限に生かすためのリハビリテーション看護の知識・技術を習得する。

【授業内容のスケジュール】**(担当)**

- | | | |
|-------|---|-------|
| 1) | リハビリテーションの意味・歴史・対象 | 服部 |
| 2) | アセスメントするための基本的な評価ツール、高齢者の評価ツール | |
| 3) | リハビリテーション看護の独自性と専門性 | 丸岡 |
| 4) | 急性期・回復期・維持期・終末期リハビリテーションの看護 | |
| 5)～6) | 障害とは何か、子どものハビリテーション【habilitation】
身体障害児・発達障害児のリハビリテーション看護の実際 | 井上 |
| 7)～9) | 成人期にあるリハビリテーションを必要とする人の看護
健康機能障害回復と看護、障害受容と生活の再構築 | 辻・池田 |
| 10) | 地域、在宅リハビリテーションの看護の実際 | 丸岡 |
| 11) | 精神科におけるレクリエーション | 檜葉・早川 |
| 12) | 精神科におけるリハビリテーション | 檜葉・早川 |
| 13) | 精神科における退院支援 | 檜葉 |
| 14) | 「精神障がい」を持つ人の地域生活支援 | 檜葉 |
| 15) | 「精神障がい」と共に生きる～当事者の語りから～ | 山本 |

【評価】

成人看護 老年看護：試験（90%）、出席状況・授業への参加態度（10%）

小児看護：事前学習課題・講義への自主的参加40%・レポート60%

精神：レポート90%・授業および演習参加状況（10%）

評価責任者：服部園美

【教科書】

二宮啓子編集：小児看護概論「子どもと家族に寄り添う援助」改訂版第3版 南江堂

二宮啓子編集：小児看護技術「子どもと家族の力を引き出す技」改訂版第3版 南江堂

武井麻子他「系統看護学講座専門分野Ⅱ精神看護学①および②」

【推薦参考図書】

落合芙美子監修：「リハビリテーション看護」，メヂカルフレンド社，2015

【その他】

(前期) 2年次・必修

【概要・目標】

本科目では、人々の生活の場である地域で展開される看護（地域看護）について、特に個人・集団・地域の健康レベルの向上を目指して取り組む公衆衛生看護活動の実績やこれまでの発展経緯から、その基本的な考え方や方法の特徴、および看護職が果たす役割について学ぶ。

- 1) 地域における看護活動の理念や目的を理解する。
- 2) 地域における看護活動の変遷を理解する。
- 3) 地域における看護活動の場と対象の特性、展開方法を理解する。
- 4) 地域において看護職が果たす役割を理解する。

【授業内容のスケジュール】

- 1) ~ 2) 生活の場である地域で展開する看護とは
- 3) ~ 4) 地域と生活の関係
- 5) ~ 6) ヘルスケアシステムの中で機能する看護
- 7) 地域における看護活動の歴史
- 8) ~ 10) 公衆衛生看護の展開方法とその特徴
- 11) ~ 12) 学校での看護活動
- 13) ~ 14) 地域特性の把握
- 15) ~ 16) 地域保健演習準備
- 17) ~ 24) 保健所・市町村での看護活動の実際（地域保健演習）
- 25) ~ 26) 地域保健演習まとめ
- 27) ~ 28) 地域における人的資源と地域づくり活動
- 29) 公衆衛生看護における看護職の役割
- 30) まとめ

【評価】

筆記試験（60%）、レポート（30%）、出席状況および授業・演習への参加態度など（10%）により評価する。ただし、筆記試験は6割以上の得点を必要とする。

【教科書】

宮崎美砂子他編「最新公衆衛生看護学総論第3版」日本看護協会出版会

【推薦参考図書】

適宜紹介する

【その他】

家族と看護

岩 村 龍 子 教授
前 馬 理 恵 教授
岡 本 光 代 講師
谷 野 多見子 講師
藤 田 美 佳 非常勤講師

(後期) 2年次・必修

【概要・目標】

家族の形態や機能は社会の影響を受けながら変化していくことを歴史的視座から学ぶ。家族が直面している健康問題に対して、家族が主体的に問題解決できるように家族のセルフケア能力を高めるための家族看護の機能を学ぶ。

- 1) 家族看護とは何かを理解する。
- 2) 家族を理解するための諸理論を学ぶ。
- 3) 家族支援の方法・内容について理解する。

【授業内容のスケジュール】**(担当)**

- | | | |
|-----------|---------------------------|----|
| 1) ~ 2) | 家族の概念 家族看護学とは | 前馬 |
| 3) ~ 4) | 家族看護理論 | 前馬 |
| 5) ~ 6) | 家族看護の実践 <地域における家族への支援> | 岩村 |
| 7) ~ 8) | 家族支援の実践 <成人期の家族への支援> | 岡本 |
| 9) ~ 10) | 家族看護の実践 <乳幼児がいる家族への支援> | 岡本 |
| 11) ~ 12) | 家族看護の実践 <病児がいる家族への支援> | 岡本 |
| 13) ~ 14) | 家族看護の実践 <精神障がい者の家族への支援> | 岩村 |
| 15) ~ 16) | 家族看護の実践 <多問題を抱える家族への支援> | 岩村 |
| 17) ~ 22) | 多様化する家族 | 藤田 |
| 23) ~ 24) | 家族看護の実践 <要介護高齢者の家族への支援> | 谷野 |
| 25) ~ 26) | 家族看護の実践 <障がい児・者がいる家族への支援> | 前馬 |
| 27) ~ 28) | 家族看護の実践 <難病患者の家族への支援> | 谷野 |
| 29) | 家族看護の実践 <終末期患者の家族への支援> | 谷野 |
| 30) | 家族看護における看護者の役割 | 前馬 |

【評価】

筆記試験 (75%)、レポート (15%)、出席状況および授業への参加態度など (10%) により評価する。ただし、筆記試験は6割以上の得点を必要とする。

【教科書】

宮崎美砂子他編「最新公衆衛生看護学総論第3版」日本看護協会出版会
宮崎美砂子他編「最新公衆衛生看護学各論1第3版」日本看護協会出版会
臺有桂他編「地域療養を支えるケア①第6版」メディカ出版

【推薦参考図書】

鈴木和子・渡辺裕子共著「家族看護学・理論と実践」日本看護協会出版会

【その他】

